

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001018		
法人名	株式会社 アイリスマーク		
事業所名	グループホームふれあい小樽・稲穂 (2F)		
所在地	小樽市稲穂1丁目1番1号		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172001018&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成24年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所は、職員の資格取得や研修会参加に対し協力的であり、多くの職員が向上心を持ち、活き活きと明るく元気に仕事をしています。
 ・ホームの立地条件を生かし、利用者それぞれに合わせた買い物や外食など、外へ出る機会を多く持つように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小樽の中心街に位置し、商業ビルが立ち並ぶ一角にあります。地域との連携が困難な中、立ち止まる事なく積極的に取り組み、町内会や商店街から理解され協力関係に発展し、商店の方々との馴染みの関係も出来、安心して利用者が出かけています。運営推進会議では薬剤師の方に、インフルエンザ等について講話を頂き、利用者がうがいや手洗いなどの予防について、解り易く説明を受けました。また、利用者の服用している薬マニュアルを作成し、副作用や注意事項を纏め、ケアに活かしています。職員は「自分が入りたくなるホーム」を目指し、ふれあいを重視したケアにあたっています。利用者は音楽療法時に歌やリズム楽器で能力を発揮し、ミシンで作品を作り食卓で利用したり、詩を作ったり、料理好きな方は、きんぴらやなま酔の味付けに参加する等、利用者それぞれの持ち味を引き出し、ホームでの生活に活力を見出しています。食後には、利用者と職員がコーヒータイムで、談笑しながら寛ぐ雰囲気印象的です。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者 とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解 者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が反映されるよう、日々、務めているが、職員全員に浸透されてはいない。職員全員で理念を見直し作っていきたい。	現状に即した理念を職員全員で見直し、具体的に明文化するまでになっております。新年度からは新たな理念の下、具体的なケアについて職員間で共有し、実践に繋げる予定です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、町内会に加入しており、火災訓練等で地域の住民の協力は得られている。	商店街の喫茶店などの各商店を利用したり、また、商店からはお花、節分には豆を頂くなど、馴染みの関係が出来ています。町内の祭りや雪灯りのイベントにも参加し、楽しんでいます。幼稚園児との交流を新年度から多目的ホールで企画しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて積極的な活動は活かしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っており、会議では事業所からの報告、参加者からの意見、要望を聞きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に行われています。薬剤師の方の認知症の薬や感染症、インフルエンザ等について講話を頂き、利用者も参加し、うがいや手洗いの予防法について、解り易く説明を受けています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に相談し、指導を受けている。	市介護保険課と連携を図りながら、ケアサービスを展開しています。また、市保護課職員のホーム訪問も受け、利用者の状況報告をしながら指導を頂き、サービスの質の向上に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組み、徹底できている。	委員会が中心になって研修や学習会を開催し、身体拘束のないケアへ周知徹底を図っています。また、ミーティングで、不適切な対応がないか振り返る機会を設けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を徹底するよう務めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学んでいる職員はいるが、職員全員が理解している状態ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と口頭で十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望を聞くようつとめている。運営推進会議でもお聞きし、出来る限り反映させている。	利用者や家族とは、日常的に何でも話し合える関係を大切にしています。相談や苦情があった場合には、職員間で話し合い、苦情処理簿に記録し、改善策に取り組んでいます。その取り組み状況を利用者や家族に解り易く説明し、理解を得ています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の間での意見交換をする機会は少なく、運営に関し反映はされていない。	管理者と職員は、ミーティングなどで意見を出し合い、運営に反映するよう努めています。最近、ベッド柵と居室入口に福祉用具（手摺）の必要性を検討し、反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準では各自に向上心を導き出せるような体制が不十分であり、職場環境、条件が整備されているとはいえない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加の機会も多く、なるべく多くの職員が参加できるよう時間調整も対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問研修を実践しており、サービスの質を向上させるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、心身の状態や思いに向き合い、本人が安心するような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から要望等をしっかりと聴き、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談から本人、ご家族の思いや状況を把握し、必要としている支援の提供が出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、教えてもらう場面も多く感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事等を伝えたり、ご家族をホームの行事にお誘いしたりして本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺参り等昔からの馴染みの場所へ行き続けられるよう努めている。又、手紙、年賀状、電話連絡等、関係が途切れないように支援している。	地域の馴染みの喫茶店や薬局、行きつけの美容室に出かけたり、友人との外出を支援しています。また、ホームに友人、知人が来訪する事も多く、温かく迎えています。年末には年賀状の支援をしたり、自宅に戻られた利用者がホームに遊びに来るなど、関係が継続するよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係には常に気を配りトラブルの兆しが見えた時点で対応している。トラブルが発生した時は職員が関係修復に努め支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人、ご家族の相談や支援に取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気無い会話や行動、表情から思いや意向をくみ取り職員間で情報交換し把握に努めている。	日常の関わりから、表情や言動などのサインを汲み取り、把握しています。意思の表出が困難な場合には、毎日のケアの記録や、家族との会話の中から理解、把握して職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族からお聞きし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し心身状態、有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、主治医の意見を取り入れ、会議などで職員同士で話し合い介護計画を作成している。	介護計画は、利用者と家族の意向を盛り込み、主治医や薬剤師の意見を参考に、職員会議で意見を出し合い作成しています。日々のケアの中、モニタリングを行い、達成できるよう努力しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日報にケアの実践、結果等を記入し全職員が情報を共有する体制になっており、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院、外出等必要な支援や対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分な支援は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿ったかかりつけ医となっており、利用者それぞれのかかりつけ医に相談指示を仰ぎながら関係向上に努めている	利用者や家族の望む受診支援をしています。受診に職員が同行した場合には、受診記録を書式化し、指示や処方薬の変更などを記録し、家族と共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等を報告し相談しながら指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに面会に行き病院関係者から利用者の状態を聞き取り関係作りに努めた。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ご家族、病院に伝え話し合いを行っている。それぞれの立場を理解し支援に努めている。	入居時にマニュアルに沿って、重度化した場合の取り組みを説明し、家族と共有しています。重度化した場合には、早い段階から関係者と話し合い、共有しながら支援に取り組んでいます。過去に看取りを経験しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにAEDを設置し職員全員が普通救命講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下、地域住民やご家族の協力を得て避難訓練を行った。ホームでも定期的に避難訓練を行っている。	避難訓練は、近隣の高齢者住宅の協力で定期的を実施されています。夜間を想定した自主訓練も毎月行われています。災害時には、高齢者住宅のロビーが、一時避難場所として協力を頂いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしています。入居時には、個人情報の使用に関しても細部にわたり表記し、利用者と家族に理解を得て同意書を交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせ日常生活の中で自己決定出きるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って外出や買い物なども柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿うよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や後片付け等、利用者それぞれが出来る事を職員と一緒にやっている。	食事作りは、利用者の出来る事を一緒にに行い、教わる事も多くあります。食事中は、利用者と一緒に漬けた漬物の話題で盛り上がり、楽しく、ゆっくり時間をかけて食事をしています。食後には、利用者と職員と一緒にコーヒータイムで、談笑し、和やかな時間を過ごしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの状態に応じて摂取量の調整や言葉掛けによる支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力量に応じ仕上げ磨きを介助、声掛け等の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じたりハパン、パットの使用を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、夜間おむつを使用していても日中は、排泄用品の工夫から仕草などを察知し、さり気なくトイレに誘導し、失敗を減らす支援を行っています。排泄用品の使用軽減に結びついています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し下剤服用を調整し、水分摂取、乳製品、運動を取り入れて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ希望やタイミングに沿うよう努めているが100%対応できているわけではない。	入浴は、その日の身体状況や要望を確認して、支援に努めています。入浴を拒む時には、時間をずらしたり、日を改めたり、職員を代えるなど工夫して支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の活動を促し生活リズムが安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬日誌を活用し、薬の変更等、職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ事や気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って買い物、散歩、お寺参り等の外出支援をしている。誕生会では利用者の希望を聞き外食に行っている。	外出は、買い物や散歩の他に、普段行けない水族館、貴賓館（旧青山邸）、花見等も家族の協力で実現しています。誕生会には、外食の希望を取り入れています。冬は、多目的ホールでの歩行訓練や嚙下体操に力を入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や力に応じ手元に5000円内のお小遣いを所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆、年賀状作成支援、職員からの声掛けで電話をかけたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁紙を作ったり花を利用者と一緒に飾っている。	1階多目的ホールには雛人形が展示され、利用者はリハビリやレクリエーション時に、眺めて穏やかな気持ちになり、季節を感じています。共用スペースには観葉植物も置かれ、掲示コーナーには利用者が作った詩を掲示し、来客者を楽しませています。食事時には、利用者の作ったランチョンマットを敷いて、和やかに食事を摂っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり新聞を読んだり思い思いに過ごしているが相性の悪い利用者同士の空間確保には配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた物を持ち込んでいただいている。	家族の協力で仏壇やテレビ、椅子、趣味のミシンなどが持ち込まれ、ミシンで作品を作ったり、詩を作るなどして楽しみ、一人ひとりが安心して過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ミーティングで話し合い安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		